

第80回 浜高教定期大会

7月1日(土)、第80回定期大会が市従会館ホールにおいて開催されました。

本大会は、代議員定数63名のうち50名の出席により成立、13時に開会し17時に閉会されました。来賓として、市労連より副委員長・水野博様、教育委員会より教職員

労務課長・大木靖博様・教職員労務課・宮田拓弥様、全教より書記長・壇原毅也様、浜高教顧問弁護士・岡田尚様をお招きしました。

全教書記長壇原毅也様にはご挨拶に加え、教職員の長時間過密労働解決に向けた取り組みについてのお話もいただきました。大会運営

上の役割としては、議事運営委員長に白田正明さん(横線分会)、議長団に福澤あやめさん(Y全分会)と齋藤成二さん(YSFH分会)、書記に三好裕美さん(Y別分会)と大橋正義さん(ろう分会)が選出されました。

本大会は昨年よりも充実した内容となりました。大会の運営にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。今年度も組合員みんなで浜高教を盛り上げていきましょう。

◆第80回大会質疑応答(2022活動報告について)
◆真柄さん(みなと総分会)



◆真柄さん(みなと総分会)

執行委員長挨拶

執行委員長 木立敏樹

みなさん、こんにちは。浜高教執行委員長10年目の木立敏樹でございます。よろしくお願ひいたします。

コロナ禍も一段落して、本日は久しぶりに一部来賓の方々にもご出席賜り、定期大会を開催することになりました。お忙しい中をお越しいただいた来賓の皆様へ感謝申し上げます。そして、各分会から代表して集まっていた組合員の皆様、お忙しい中ありがとうございます。本日は、土曜日の午後のひと時、この第80回定期大会、浜高教のこの一年を振り返るとともに、これからの一年について、話し合っていきたいと思ひます。短い時間ではありますが、皆さんからの多くのご意見を期待します。

今年度は日本経済、物価上昇に賃金引き上げが追いつかない状態が続いています。春闘では多くの民間企業が賃上げを実現させました。全国の公務員・そして公務員給与に準じる民間企業はその賃上げを心待ちにしています。秋季闘争ではなんととしても多くを勝ち取らなければなりません。

本日、各分会から次年度の教育予算要求を提出していただきました。これにつきましては、分会代表者・各部の部長とともに当局に提出します。当局は毎年のように「限られた予算の中での対応なのでご理解いただきたい」と回答します。しかし、政府は軍備費の予算を大幅に

アップしようとしています。果たして予算は限られているのでしょうか?その気になれば教育費もアップできるはずですが、軍備費の一部でも教育費に回せば、日本の教育はかなり改善できるのです。

みなさんご存じのように世界の複数の場所で戦争が生じています。日本もいつ巻き込まれるかわかりません。軍備にお金をかけることによって抑止力になると言いますが、悪用される危険も増してきます。「教え子を再び戦場に送るな」を合言葉に、平和と民主主義を求める行動にも参加していきたく思ひます。

長時間過密労働・慢性的教員不足の解消、免許更新制にかわる新たな研修制度、部活動の地域移行、給特法の見直し、残業代の支給、常勤講師の差別解消、高校初任者の初回中学校異動問題、定時制手当の支給、管理職のハラスメント防止など解決すべき課題は山ほどあります。これらは一人では解決できません。浜高教に一人でも多くの組合員を集めて、市内・県内・全国の組織の方々とも、これまで以上に協力して取り組まなければなりません。

今年度、執行部は9人枠中5人でのスタートとなりました。選挙でのご承認、感謝いたします。次の世代へのバトンタッチが最大の課題です。積極的な立候補をお待ちします。以上、挨拶いたします。ありがとうございました。

◆第80回大会質疑応答(2022活動報告について)

◆真柄さん(みなと総分会)



◆真柄さん(みなと総分会)

養護教諭の人事異動についてですが、浜高教として一番大事なのは身分の保障だと思います。(本人の希望を聞かずに他校種に異動させるのは)明確な違反だと言っている。異動意向調査による強制には徹底抗戦してほしい。

再任用問題ですが、再任用に手厚くしろというのは結果として50代の給料を下げるということになる可能性が高いと思うので、60歳で辞めるなら50代が下がない方がいいと思います。

◆井上副委員長



◆井上副委員長

今の要望に対する回答は「運動方針」の方にも出てくると思っているので、そちらの方でお願いします。

◆進さん(東分会)



◆進さん(東分会)

異動問題についてですが、教員が本人の希望と承諾の原

則を外れて行政に移らせられるという問題で不思議に思っているのは、僕は教員試験を受けて教員として採用されているのに行政職に行かされるのは法律違反ではないのかと思うんですが、教育委員会に教員経験のない人が集まるのも困るのではないかとも思いますが、そうやって行かされる人の中には多分現場で活躍している人が多いと思うので、抜ける現場としても困ると思うんですね。そこを阻止する方法はないのでしょうか?

◆三木書記長



◆三木書記長

この件について岡田弁護士に聞いたときに、「中学校に行かされることについては、中高で採用されているわけだから、自分は弁護士を引き受けない」と言われました。そこは法律的に争うのは難しいと。行政職に行かされることについては、公務員の場合はそうしないという契約はないので、それを拒否するのは難しいという話でした。ただ、管理職試験を受けて合格しているかたもいるので、そのかたから市教委に異動していただき、ご本人が市教委への異動を希望しない場合、無理やり引き抜かないでください。

現場も困りますと市教委に訴えています。

（2022運動方針について）

◆近藤さん（南分会）



「初任者の2校目中学校問題」です。ここ数年、南高校にも初任者が多く配置されており、高校教育に魅力を感じて高校ですと働き続けたいと思っているかたが多いと思うんですが、本人の希望を聞かずに中学校に行かせるというのは本人の意欲が下がると思うし、高校としても大きな損失になると思います。「2校目が中学校と決まっているなら横浜市ではなく神奈川県を受けます」という人もいます。養護教諭は小中高のどの職種でも仕事ができる免許になっています。私が採用された時には希望の校種順を書くことができませんでした。しかし昨年突然意向調査の様式が変わって希望校種を書く欄がなくなりました。養護教諭の仕事は校種によって子どもの発達段階が大きく違います。初任者も養護教諭も、異動については本人の希望が無視されることがないようにしてほしいと思います。

◆白田さん（横総分会）



入試制度の取り組みについて、ちよつと不安があります。三年前にコロナの問題が起きた時にいろいろな対策が講じられました。例年、入試担当者を善行に集めて12月に説明会が行なわれていたのですが、コロナの時は説明の後に質問をする人が四五十人列を作っていました。また1月には資料が届いて新しく変更が伝えられました。提出締め切りはこれまで通りでした。今回は入試制度が変わります。受検生の志願変更までの資料は届いていますが、志願変更が終わった後の高校の対応についてはいつ頃判るのかがすごく心配です。校長にも言いましたが、組合からも連絡については早めにしてほしいと市教委に伝えていただきたいと思います。

◆三浦さん（戸定分会）



部活動のことに以前にもお話ししたんですが、試合に生徒を引率した場合はお金が出るけど、自校開催の場合はお金が出ないというのが衝撃的でした。会場校を引き受けるのは結構大変なことです。現状を見ると、バレーボールの場合、土曜日は私学は会場が取れないので公立校でやりますよと言ったとき、市立高校の顧問は「横浜市立高校は手当が出ないんだから嫌だなあ」という発想にな

りかねない。そうすると大会が運営できなくなってしまうと思います。外部指導者への移行についても、お金がかかることなので親の経済状況の差が影響します。部活動の全員顧問制は働き方改革の問題があると思いますが、市立高校の魅力ということを考えて生徒本人にとっても保護者にとっても部活動の存在は大きいと思います。そういう部活動を支える一環としても、試合の自校開催にもお金を出してほしい。組合としても市教委に働きかけてほしいと思います。

◆進さん（東分会）

中田・元市長が17年前に部活動は教員の仕事だと明言しました。それから横浜市の方針が変わってしまったところがあります。給料表が改定されて我々の給料は全員下がっています。その下がった分を原資として部活動手当を充実させようと言って、部活動手当が上がったという経緯がありました。それによって土日も一生懸命部活をやっている先生が救われている部分があったんですが、今になって、働き方改革には勿論賛成ではあります。振替を取れというのは予算削減に利用されているようで、横浜市は一貫性がなくてずるいと思います。その点を市教委に確認してください。

◆藤森さん（YSFH分会）



本年度青年部長を務めております。昨年度から初任者の2校目異動の件で市役所に行つて直接お話しする機会があったんですが、先ほど三浦先生からもあったとおり、市立高校の魅力がこの制度によって削がれてしまっているのではないかと感じています。市教委のかたにも伝えたいんですが、それでもなお、お茶を濁されました。部活動も授業の質という部分もそうですが、例えばサイエンスフロンティア高校では理数教育をプッシュするという教育理念を持っています。市立高校をどうして行きたいのかという理念をはっきり示して、



議決風景

大会宣言

岸田政権は、安保3文書の改定により、憲法9条に示される平和主義を覆し、軍事大国化へ向かう姿勢を示しました。軍事費増大のための増税と国債発行により、教育費や社会保障費が大きく削減されることは必至です。戦争ができる国に向かうこの流れを、止めなければなりません。また、この改定や過去の様々な問題において、政府が見せる強権的な姿勢は、絶対に認められません。

学校現場の教職員未配置と長時間過密労働は深刻で、給特法に起因する「定額働かせ放題」といわれる劣悪な状況は異常です。子どもたち一人ひとりに向き合うことが、困難な状況が広がっています。長時間過密労働改善には、持ち時間数上限設定や少人数学級、教員定員増加といった取り組みが必要であり、そのためには教育予算増大が必須です。「教職員の労働条件は子どもたちの教育条件」との観点から、教育研究者有志20名が呼びかけた署名等全国的な運動に参加し、残業代の支給や賃上げの実現など、大幅な労働条件の改善を勝ち取り、教職の魅力とやりがいのある仕事となるように取り組みましょう。

3年間にわたるコロナ禍は、子どもたちの学びと生活を制限し、その成長・発達に大きな影響を与え、息苦しく、生きづらい学校や社会の在り方が改めて明らかになりました。教職員を取り巻く問題としては、免許更新制にかわる新たな研修制度の問題。横浜市立高校初任者の中学への強制異動、高校養護教諭の異動、市教委への強制異動等の異動の問題。部活動の地域移行や特勤手当の支給、振替の取得などの問題。常勤講師、60歳を超えた教員、暫定再任用、育児代替任期付教員、臨任、会計年度任用職員の労働条件改善やハラスメントの問題等が挙げられます。私たちはこれらの問題を全国組織、市労連、共闘する運動団体とも力を合わせて解決していかなければなりません。

私たちを取り巻く様々な問題への取り組みには組合の力が必要ですが、しかし、近年組合員数は減少し組織率が低下しています。本部執行委員も定員割れの状況が続いています。浜高教の弱体化は、横浜の教育環境悪化、教職員の賃金・労働条件悪化に直接かかわる大問題です。この危機を乗り越えるためには組合員全員の協力が不可欠です。分会を基礎に、職場の仲間と対話を進め、職場全体の要求を束ねて、組合活動を見える化し、改善につなげていきたいと思います。横浜市の教育の未来のために、これからの教育を担う若者のために、分会で組合活動の意義を訴え、仲間を増やし、組織拡大に取り組みしましょう。

今、日本は、大軍拡への道を進もうとしています。その道の先に、悪い予感がします。今、戦火により、尊い命が失われています。ウクライナで、また、さまざまな地域で、今、私たちは、戦争を身近に感じています。そして、戦争の恐怖を感じています。これまでよりも強く、だからこそ、私たちは教職員として、考えなければならぬのではないのでしょうか。戦争について、だからこそ、認識するべきではないでしょうか。戦争に備えるのではなく、平和を守る努力をするべきではないでしょうか。だからこそ、私たち教職員は、思い出さねばならないのではないのでしょうか。戦争体験から、その悲劇から生まれた「教え子」を再び戦場に送るな」という誓いを。この誓いを守るために、私たち教職員は活動しなければなりません。一人ひとりの思いを合わせ、力を合わせ、団結しなければ、より大きく、より強く団結しなければ、この誓いを実現することはできません。

私たち浜高教は、一致団結し、全国の仲間との共闘を通して邁進していきます。

二〇二三年七月一日
横浜市立高等学校教職員組合 第80回定期大会 代議員一同

それに見合った環境づくりをしてほしいと思います。

◆新宅さん（横総分会）



横総で今年異動に関して変わったことがあるのでご報告します。社会科に、大学出たての初任のかが一人来ました。免許が地歴のみです。どうしてそうなったのか管理職が市教委に問い合わせたら、「間違えた」とのことです。このままでは持てない授業があるので、その分の、初任研対応のような講師対応や特別免許状の発行等をしてほしいと市教委に言いました。校長代理は、高校に来ただから公民免許を取るように言ったようですが、次に中学校に行かされる人にそんなことを言うのは理解できません。

◆三木書記長

中学校異動の問題が三人のから出されましたが、どのよう支えていくかというのは難しい問題です。現に、「中学校に行きたくないの県の採用試験を受けている人がいる」ということをオルグのときに聞きました。特別支援学校には臨任のかがたくさんいます。その中の高校希望の人たちに「横浜市立高校に採用になると次の異動は原則中学校と、市教委は言っています」と伝えると、「じゃあ県を受けようかな」となります。

この前の青年部の会議では、中学校から高校へ来たいと希望する人も一方、「中学校を希望したのに初任で高校に採用されたという人もいる」という話がありました。そういう状況があるのになぜ「二校目は中学校」なのかと追及していくことはできると思いますし、本人の不本意から来る意欲の低下は学校全体に影響すると思います。横浜市においても教員採用試験を受ける人が少なくなっているときに、わざわざそんなことをすることにほしくないと思うので、それも併せて言っていこうと思います。

その関連でお話すると、盲学校、ろう学校で認定講習という特別支援学校教諭免許を取るための講習が夏休み中にありますが、「正規職員は研修職免、任期付職員・臨任職員は休暇を取るように」と通知が出されました。オンラインで同じ講義を受けるのにです。校内でZoomをやっても休暇を取れと言っているので、「なぜですか?」と聞いたら、「来年度横浜市に勤めるかどうかかわからないから」と言うのです。最終的には「三木書記長から正式な要求書を出してください」と言われましたが、そんなふうにして任期付職員や臨任の人を大事にしなかったら横浜市は見捨てられると思っただけです。そういうことを許してはいけないと思っただけです。

養護教諭のかたの、モチベーションを維持できなくなるという話も本当にそうだと思います。あれは政令市移管で、今まで高校だけの要項で動いていたものが、小中と同じ異動要項になり、その時に養護教諭用のカードを使用すると変えられたのが原因

です。私たちも十分に気づかず対応が遅くなり申し訳ありません。

入試の問題については、白田さんの言われるように伝えていきたいと思っただけです。

部活動の問題については自校開催の手当の問題について要求していますが、市教委は、「働き方改革で休みの日は長く働かなければいけない」と言っているところ、8時間の手当を新たに増やすというのはいかがなものか」と言っています。ただ、引率についてはお金を出して自校開催には出さないとするのは理屈が合わないと思うので、そこを強く言っていきたいと思っただけです。

東の進さんのご指摘ですが、遠足や修学旅行は手当と振替の

女性部定期総会&学習会

6月3日(土)に市従会館において2023年度浜高教女性部定期総会が開催されました。全ての分会より多くの女性部員の皆さんが参加されました。

まずは前役員の方々から、2022年度の活動報告と、決算報告が行われました。前部長の田中重紀子さんの挨拶では「仕事か、家庭か、どちらかを優先するのはなく、どちらも優先される社会を目指したい」という言葉があり、たくさんの参加者が頷く場面となりました。

続いての新役員承認の後に、新部長の田中法子さんより、2023年度の活動方針案が提案され、賛成多数で可決されました。質疑応答の場面では「ジェンダー平等の観点から、これからの女性部」という枠組みはどうあ

両方が認められています。振り替えたからお金は出さないといいのは、おかしいというのが根本です。そのことを踏まえて交渉していきたいと思っただけです。

藤森さんの「市教委は市立高校をなくしたいのか?」という訴え、人数が足りないのに新しい仕事ばかり押し付けてきたり、中学校異動の話を出したりとか、さらに現場は多忙で苦しくなるということを伝えていきたいと思っただけです。

地歴の免許しかないというケースは、ご本人に不利にならないようにしていきたいと思っただけです。



高校懇2023総会・中央行動

六月八日(木)、全国高校組織懇談会総会・中央行動が行われました。新型コロナウイルス感染症拡大も一段落ということで、対面の開催となりました。浜高教からは五名が参加しました。

総会は福井高の長谷川代表世話人による主催者挨拶、高木事務局長による昨年度の活動報告・会計報告、今年度の活動方針案・予算案、来年一月に行われる高校教育シンポジウムについて、今年度の世話人・事務局体制についての提案、埼玉高の長沢会計監査による監査報告がなされ、質疑・討論の後、承認されました。浜高教からは木立委員長が世話人に、三木書記長が会計監査に選出されました。

続いて意思統一集会。宮本岳志衆議院議員、田村智子参議院議員の二人から国会情勢報告、三本の特別報告「高校統廃合と再任用問題」北海道の今(北海道高・岸美千代さん)、「学校がなくなる効率、学校でなくなる私学...大阪の実情(大阪高・岩佐朋三さん)」、「山口県で教員になりましたか?」(山口高・中原幸一さん)がなされました。

午後は文部科学省、厚生労働省、防衛省、こども家庭庁、日本学生支援機構、全国高等学校PTA連合会、全国高等学校長協会、全国知事会、経済同友会、労働者福祉中央協議会に分かれて、要請行動並びに懇談を行いました。(木立敏樹)

続いて、「一人ひとりが輝く! パーソナルカラーの魅力」と題して、パーソナルビューティーサロンを運営されている講師の木村萌さんに実演を交えた講演を行っていただきました。

「イエベ」、ブルベ」という言葉は何となく知っている程度の知識しかなかった私ですが、今回の学習会で4つのシーズンに分けられることや、それぞれの特徴、また似合う色などを知ることができました。実際のパーソナルカラー診断は、時間の関係で、くじに当たったお一人(希望者多数でした!)をモデルにして実演していただきました。色の種類はなんと一千万色もあるらしく、同じピンクでも順番に色味の違うピンクの布を顔に合わせると確実に顔の印象がガラッと変わり、これには参加者のみなさんからも驚きの声が上がっていました。パーソ

ナルカラーを知って、それぞれに似合う色・得な色を身に着けることにより、いきいきと魅力的に見えることができるということ、木村さんの「若い人でなく大人こそ大切」という言葉には説得力がありました。

途中、隣同士でお互いの肌や目、髪色などの魅力を伝えあったりするペアワークもあり、いくつになっても褒められるというのは嬉しいものだ、と感じた瞬間でした。また、木村さんは顔立ちや骨格の診断もするそうなのですが、その診断は良し悪しを判断するものではない、それぞれの個性に良さがある、との言葉が心に残りました。普段は自分のことは後回しになりがちな多忙な日々ですが、自分の個性や魅力について考えるという実りのある時間となりました。(みなと総分会 多田優子)

横浜母親大会二〇二二報告

5月28日の第63回横浜母親大会に参加しました。4年ぶりのコロナ制限なしの開催ということで、会場の金沢公会堂には多くの方々が集まっています。

午前中の分科会では、私は「横



濱の子どもをとりまく今と未来」に参加しました。参加者は元教師、現役子育て世代、現役孫育て世代が多く、現在の学校の様子を知らない、改善したい、という強い思いが伝わってきました。会の進行は、小グループの話し合いを経て、その内容を発表する形式でした。様々な事例が出る中で、子どもを取り巻く環境が変わっているという共通点が見えてきました。助言者の方は現役の中学校の先生で、ご自身の経験を踏まえたお話がと

ても興味深かったです。

午後の全体会では、フリージャーナリスト伊藤千尋氏の「平和は私たちの手で創る」戦争でなく人間性を活かす社会へ」という講演会で、ウクライナの戦争の教訓、ウクライナの戦争と日本政府、憲法9条、平和外交に関する、大変熱のこもったお話ぶりでした。

大会に参加して、「母親」だけでなく、年齢や性別の隔てなく「みんな」でよりよい社会を作り、次世代につなげることができれば、と感じました。

(みなと総分会 萩紫帆)



「青年部総会」報告

6月17日、23年度青年部総会が市従会館にて行われました。新組合部員の参加もあり、自己紹介や情報共有をしながら、仲間として集う貴重な機会となりました。

糀谷陽子さん(前全教中央執行委員 現子ども全国センター事務局長)を講師に学校部活動の地域移行について学んだあと、組合活動の説明、あいさつ、自己紹介があり、議題に入りました。

昨年度活動報告の一つ目として、Y全分会の伴在さん、戸定分会の櫻井さんから大都市高教組青年部交流会の報告がありました。昨年度は大阪で実施され、組合について、関西の難読地名のクイズで盛り上がり、旧真田山陸軍墓地を見学しました。今年度は横浜開催なので盛り上がりを見せた

いと意気込みました。活動報告の二つ目は22年度青年部会計報告が、部長の藤森さんよりありました。

協議事項は、①青年部規約確認、②23年度青年部活動方針(案)、③23年度青年部予算(案)について、④青年部新役員選出、⑤対市要求検討、⑥年間計画検討・各種活動参加者選出の6点でした。①、②、③は前部長の藤森さんより説明があり、承認されました。④青年部新役員選出では、部長は昨年に引き続きYSSF H分会の藤森さん、副部長に南分会の森原さん、書記にY全分会の伴在さんが選出されました。⑤対市要求検討では、23年度に向けた各部要求について意見を交わしました。初任者が、最初の異動で強

制的に異動させられることがないように求める要求については、各分会や新組合員からも様々な意見が上がり、議論を交わしました。横浜市立に勤めたいと思えるような仕組みにしなければ、これからのもつと教員不足が加速するのではないかと、もつと教員の意見も聞いてほしいと意見交換を行いました。⑥では青年部交流会について、昨年度はダーツやボードゲームを開催できました。今年度は7月22日の夕方から新組合員歓迎会を予定しております。23・22・21年採用の方を新組合員として、ボードゲーム等で親睦を深めていきたいと思っています。

青年部一同「ささえあい、たすけあい、そしてくみあい」で、仲間とともに連携を深めていきたいと思っています。

(Y別分会 天野靖子)

青年部学習会

今年度の学習会は「これからの学習活動と『地域クラブ活動』を考える」というテーマで開催された。講師である糀谷陽子様のお話を聞いて、今後の部活動のあり方について考えた。質疑応答の時間にはそれぞれのお考えや他の自治体の取り組みについて共有した。

私自身、高校時代は部活動が生活の中心にあり、放課後や休日の活動が当たり前前の生活を過ごしていました。また、当時はスキー部に所属していたので、雪を求めて地方への遠征が多く、1カ月以上家に帰らないこともあった。教員という立場で当時を振り返ると、感謝の思いがとても大きい。今は自分自身が顧問として頑張ることで、恩返しをしようと思う。

一方で、複雑な気持ちもある。それは、「現状の部活動のあり方が持続可能ではない」というお話を聞いたことがあるからだ。今回の学習会では「地域クラブ活動への移行」というお話があった。部活動に関わるたくさんの方の思いを尊重して、より良い部活動の運営を目指していくきっかけとなる学習会でした。

今回のような学習会を企画していただき、ありがとうございます。これからも部活動のあり方を考えるとともに、社会をより良くしていける取り組みを考えていこうと思います。ありがとうございます!!!

(YSFH分会 新田拓也)



「新組合員歓迎の集い」&「青年部交流会」

7月22日(土)に市従会館で「新組合員歓迎の集い」と「青年部交流会」が行われました。歓迎会では初めに、新組合員に向けて浜高教の説明や、直近の交渉の成果、今後解決していくべき課題などについての説明がありました。特に新組合員にとっては関心の高い「高校で初任になった教職員は次の異動先が中学校」ということを組合として大きな問題の一つとして取り上げていることは、初任3年目までの先生方にとって心強いものだと感じました。その後交

学校統廃合について考える

いま、各地で小学校、中学校、高等学校の統廃合が進められています。横浜市では八十年以上の歴史を持つ小学校も統廃合されようとしています。神奈川県はこれまで四十近い全日制高校を削減し、昨年入学者が少ないという理由で定時制高校十八校中六校の募集停止を発表しました。

りました。神奈川県に目を向けると、一九七三年から一九八七年にかけて生徒急増期対応として策定された「高校百校新設計画」で建てられました。それから四十年たち、校舎が老朽化し、補修が必要となりました。それに伴う施設整備計画とセットで統廃合を行うケースが増えていくようです。

浜高教も参加している「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」は六月十八日(日)、平和と労働会館において「学校統廃合について考える」と題して学習会を行いました。和光大学の山本由美教授による講演「神奈川の高校統廃合問題を考える」がおこなわれました。全国の小中高統廃合数の年代別推移、都道府県別発生数が示されました。

市、厚木市からも参加者があり、それぞれの地域での統廃合問題が報告されました。会場参加三十一名、オンライン参加十一名でした。(木立敏樹)

編集後記

「定期大会報告号」をお届けします。ここには現在浜高教が抱える問題が凝縮されています。どうか組合員の皆さんの団結と英知で乗り越えられることを祈ります。(編集部)

「定期大会報告号」をお届けします。ここには現在浜高教が抱える問題が凝縮されています。どうか組合員の皆さんの団結と英知で乗り越えられることを祈ります。(編集部)